[広報]
さめがわ
Public Relations SAMEGAWA

11 November 2013
第715号
平成25年11月1日発行
（毎月1日発行）

【特集】
秋の楽しみ多彩（いろいろ）

さめがわ
11 November 2013
平成25年11月1日発行（毎月1日発行）
第715号（昭和27年9月創刊）
発行／福島県鮫川村　編集／鮫川村役場企画調整課
〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39番地5

金婚を迎えたご夫婦を紹介

半世紀の歩み Episode_07
白坂眞平さん 節子さん
赤坂東野字広畑在住／昭和38年4月結婚

いとこ結婚の白坂夫妻。節子さんは埼玉県の出身で、初めは慣れない土地での生活に寂しさを感じたといいます。その中で、眞平さんの優しさや地域の人に支えられたと振り返ります。

眞平さんは自営で左官業、節子さんは役場に勤め、仕事と育児に無我夢中でした。「何だかんだ苦労したよ。苦労したから今があるんだ」と改めて50年の年月をかみしめます。

現在は、お子さんやお孫さんが来ることを楽しみの一つにしています。数年前に病気を患ったお二人は、「二人でやっと一人前。今まで以上に仲良く助け合って、そして、地域の人たちにも支えてもらいながら生活していきたい」と話します。

こちら村長室

▼「身土不二」。人と土とは一体である。▼今年も村では豊穣の秋を迎えることができました。農業が基幹産業の村には多少の値上げより、豊かな稔りの方がうれしいのです。ただ、TPP交渉で、農産物の重要五項目を「聖域」とした関税交渉が難航していると、不安な報道がされています。▼農業に誇りを持ち、安定した収入が得られる環境づくりに努めたいと考えています。国が目指す大規模化が困難な山間地域ではありますが、農業の持つ多面的機能が都市社会の環境改善に貢献していることに誇りを持ち、就農していただきたいと思います。▼人の命と健康は食べ物で支えられています。「食正しければ、病無し」といっても過言ではありません。村が目指す有機の里づくり、有機栽培された作物が、近い将来、不治の病のがんという問題を解決する答えになるのではと考えています。農業に希望と誇りを持ち、頑張りましょう。

大樂勝弘